

高性能の防錆塗料「CCCP」

熱交換塗料など環境に優しい新技術を用いた製品の開発・販売・施工を手掛けるFTJ（本社・神奈川県川崎市、工法研究会事務局・長野市、原田隆志事務所長）は、防錆塗料「CCP」シリーズの長野県内での普及に力を入れている。

同社ではCCP（アルバー工業・大阪市が開発）をこれまで主力製品の熱交換塗料の下地剤として販売・施工してきたが、性能の高さから単独で利用したいとの声が多いこと、最大手の鉄道会社

インフラ維持・修繕に光明

FTJが県内での普及強化

から、CCP単体の普及強化に乗り出した。防錆塗料「CCP」シリーズの主力商品「CCP-117」は、主剤と硬化剤の2液で構成。主剤はエポキシ樹脂構造で、外部からの水（水蒸気）と空気をシャットアウトする一方、錆の内部にまで浸透して錆を固定して安定化させる。さらに、硬化剤のイソシア

ネットが塗膜を形成して分子レベルで水分を除去、主剤とともに錆の補強や錆の進行を抑制する。「一般の防錆塗料が絆創膏的処置なのに対して、絆創膏の機能に加えて錆を抑制する薬としても作用するのが特長」（原田事務所局長）

耐久性は水だけでなく、塩水や油分、薬品が見込まれている。



被災直後のたろう観光ホテル



岩手県宮古市の震災遺構「たろう観光ホテル」にも採用された

■ 問い合わせ先
関東甲信越地区熱交換塗料・防錆塗料工法研究会（事務局：FTJ、担当・原田、長野市稲田3-30-25、電話026-262-1254、Eメールcool@ftj.co.jp）

類にも高い効果を発揮する。公的機関により実施した通常の塗料で用いられる塩水噴霧試験では2000時間を経過し、さらに、メッキや素材の耐食性を測るキャス（CASS）試験では、264時間をクリアした。速乾性に優れ、密着性が高いため、既存塗料への重ね塗りもできるといふ。塗料の性能面だけでなく、高圧洗浄機で浮いた錆さえ除集している。